

災害対策組織構築の考え方

事業継続計画

日本BCP株式会社

1、会社紹介

2、BCPとは

3、BCP策定 検討方法

会社紹介

会社概要



会社名	日本BCP株式会社	資本金	1億4,700万円（2022年10月末現在）
住所	東京都千代田区神田東松下町48番地 大阪府堺市中区深井東町3099番地	従業員数	200名
設立	2017年9月1日	事業所数	全国9か所（2022年1月現在）
代表	代表取締役社長 角谷 育則		

主な事業内容

1. 災害に対応するための石油燃料の備蓄及び非常用車両の手配
2. 非常用発電機の導入施工、点検メンテナンス
3. ガソリン、灯油、軽油、重油その他石油製品の輸入・販売
4. 防災・BCP対策用品の販売

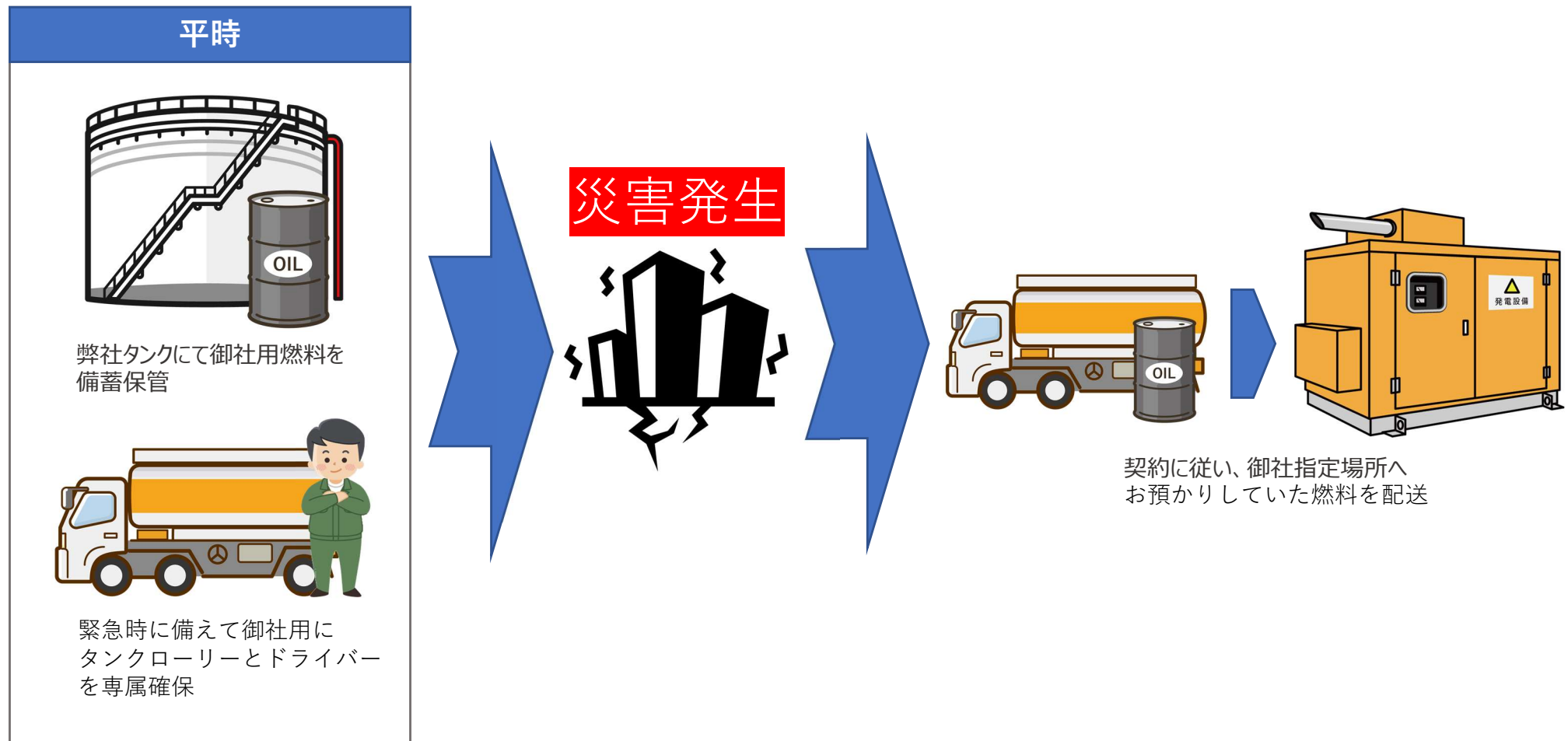
経営理念

総合防災・減災企業として命をつなぐサービスを増進する

主なサービス

緊急時燃料備蓄配送サービス

お客さまの非常用発電機用燃料を弊社が専属貯蔵し、有事の際に専属配送することで、長期停電発生時の備蓄燃料の枯渇に備えます。



ドローン燃料配送実証実験



神奈川県足柄上郡松田町にて

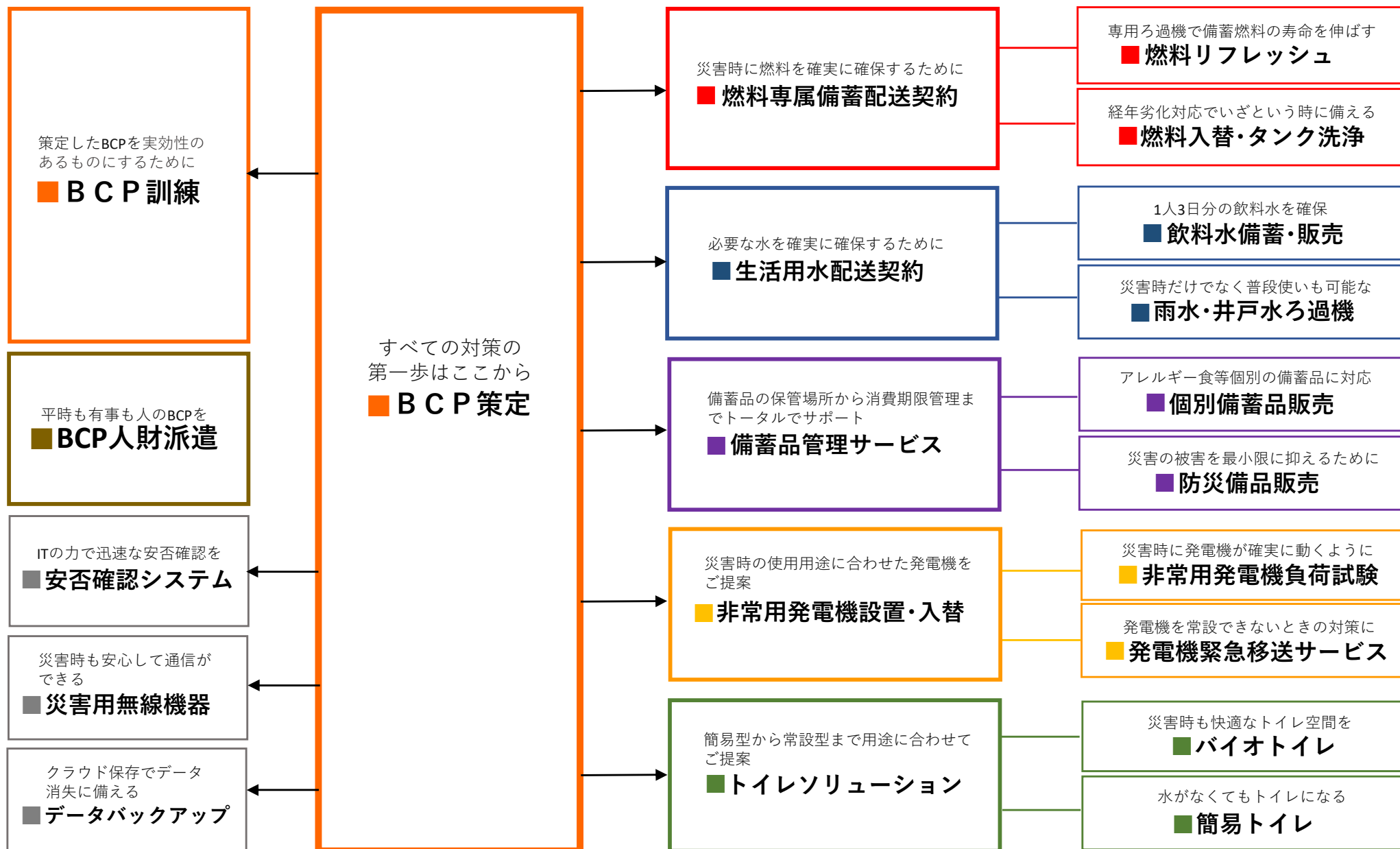
災害時に使用する水配送訓練



東京都新宿区 透析クリニックにて

日本BCPサービス連携図

様々な領域を網羅し、BCP専門商社としてあらゆる防災・BCP課題にご対応します。



BCPの構成

BCP（事業継続計画）

⇒病院業務の継続・早期復旧

防災・消防マニュアル

⇒被害の抑制

B C P 策定手順

1

リスク分析

- ・自治体発行のハザードマップ等を確認し、災害リスクを分析する。

2

現状確認

- ・施設設備の現状及び停止時の対策を確認する。
- ・備蓄状況を確認する。
- ・職員参集シミュレーションを行う。

3

災害時の体制構築

- ・災害時の組織体制を構築する。
- ・災害対策組織体制における責任者を明確にする。
- ・夜間休日の体制も考えておく。

4

優先業務選定

- ・何を継続し、何を停止するかを決定する。
- ・継続業務を誰がいつ行うかを決定する。

5

行動計画

- ・各班の行動計画示した**アクションカード**を作成する。
- ・行動に必要な帳票類を整備する。
- ・具体的な方法を示した**マニュアル**を整備する。



災害対策組織とは

災害時において**各病院がそれぞれの役割を果たすために**、
病院長をトップに迅速な情報収集、職員の動員、患者受入れ
体制構築、施設設備の応急処置及び復旧対応等を行うための
指揮命令系統を示したもの

災害拠点病院

災害による重篤患者の救命医療等の高度な診療機能を有し、被災地からの患者の受入れ、広域医療搬送にかかる対応等を行います。

地域災害拠点病院

上記に加え、地域の医療機関の被災状況の情報収集・発信及び支援等のコントロール機能、DMAT等の受入機能、DMATの派遣機能を担うとともに平常時には地域医療機関への災害医療研修を行います。

基幹災害拠点病院（大阪急性期・総合医療センター）

地域災害拠点病院の機能に加え、大阪府全体の被災状況の把握や支援にきたDMATの調整機能を担うとともに平常時には災害拠点病院等に対する研修を行います。

災害拠点病院以外の災害医療機関

災害拠点精神科病院

災害時に地域で精神科医療提供について中心的な役割を担い、DPATの派遣機能を有します。

市町村災害医療センター

市町村の医療救護活動の拠点（市町村地域防災計画で位置付ける医療機関）として災害時に医療を提供し、災害拠点病院と連携して、患者の受入れにかかる地域の医療機関間の調整を行います。

災害医療協力病院

災害拠点病院とともに災害医療を支える重要な役割を担う病院として、災害時に多くの発生が予想される中等症患者を中心に積極的に受入れを行います。

また、災害拠点病院に収容された重症・重篤患者が安定化し、災害拠点病院からの要請がある場合は、率先して当該患者の受入れを行います。

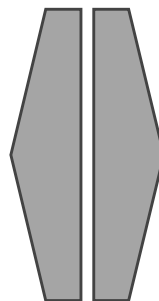
災害医療機関以外の病院

災害時に自院にいる患者の診療を継続するために平時より防災対策を講じ、災害時には災害拠点病院や災害医療機関とともに、その機能や地域事情に応じた医療の提供を担います。



ゴールの共有

災害時の姿をどのように想像していますか？



災害時における各病院のゴール

■傷病者の受け入れ

- ・そもそも受け入れるのか？
- ・赤タグ（重症患者）や診療科目外の患者をどうするのか？

■入院患者

- ・すべての入院患者のケア継続を行うか？
- ・すべてが不可能な場合の転院は？

■在宅患者

- ・在宅患者のケア継続を行うか？
- ・在宅患者の安否確認を行うか？

■一時停止業務

- ・リハビリ、一般外来、医療相談、健診業務、人工透析、、、

リスク分析と現状確認からゴールを共有する

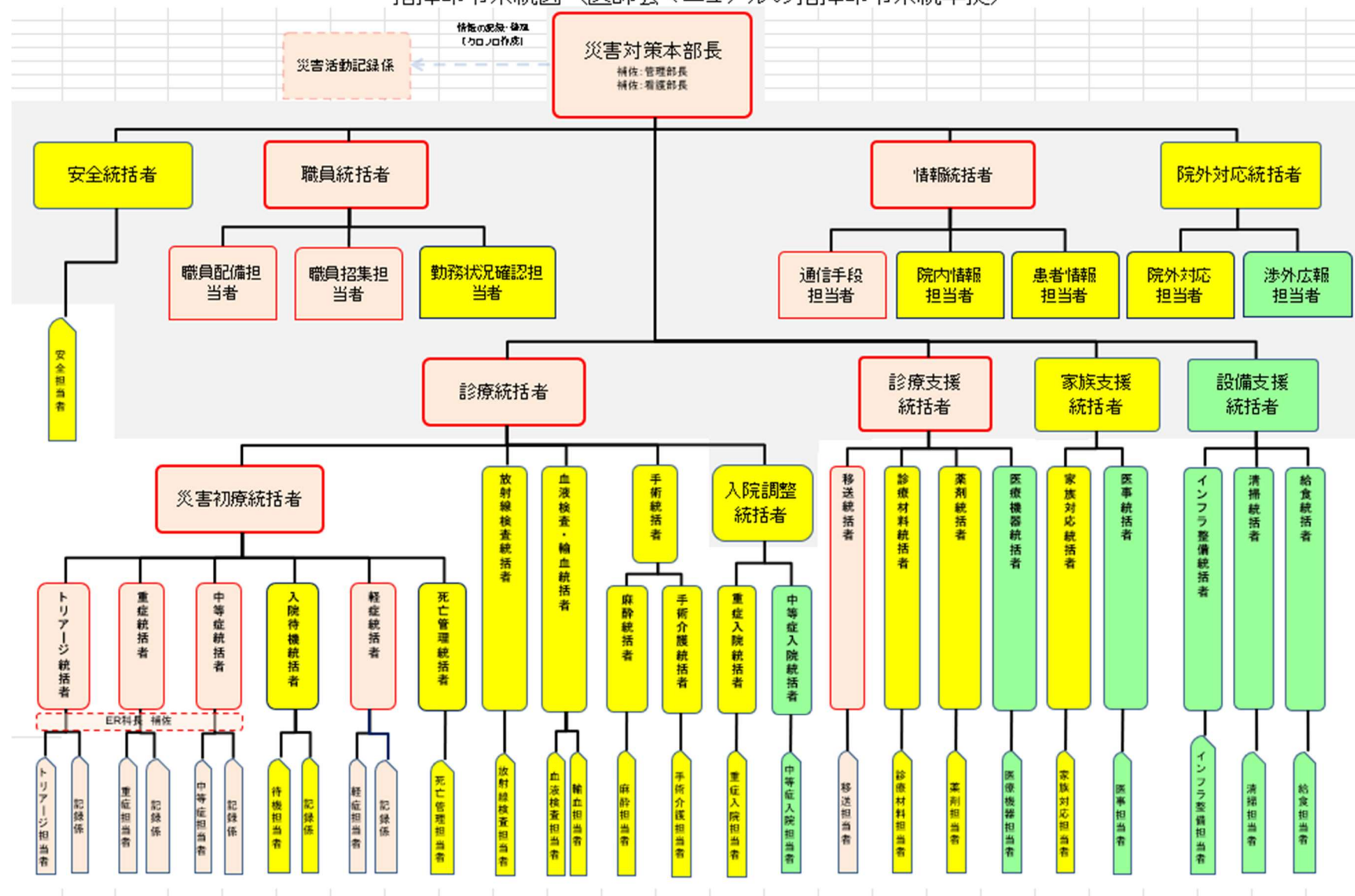
自病院の災害時のゴールを考えてみましょう



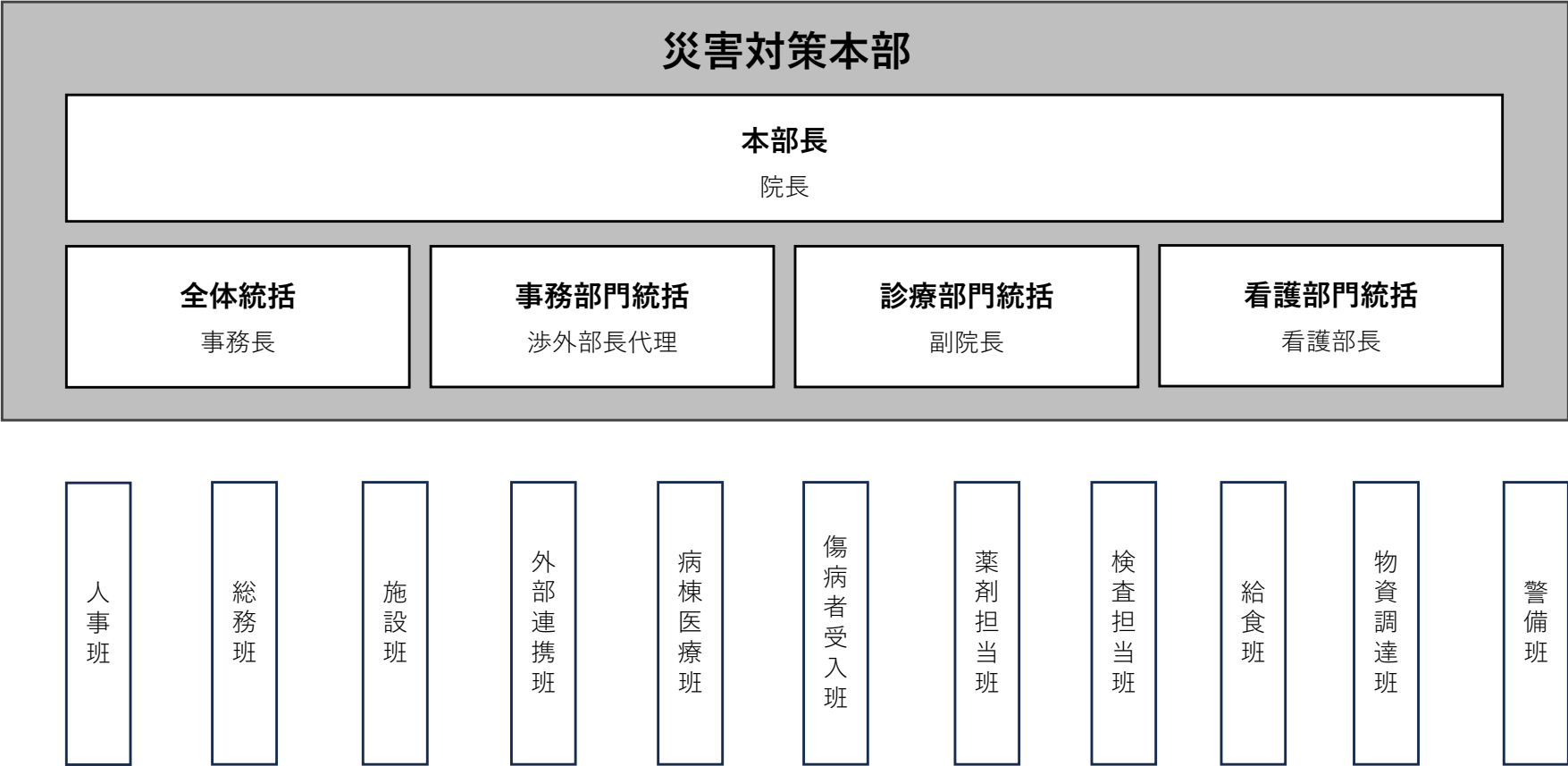
ゴールに向かうための 災害対策組織構築

組織事例

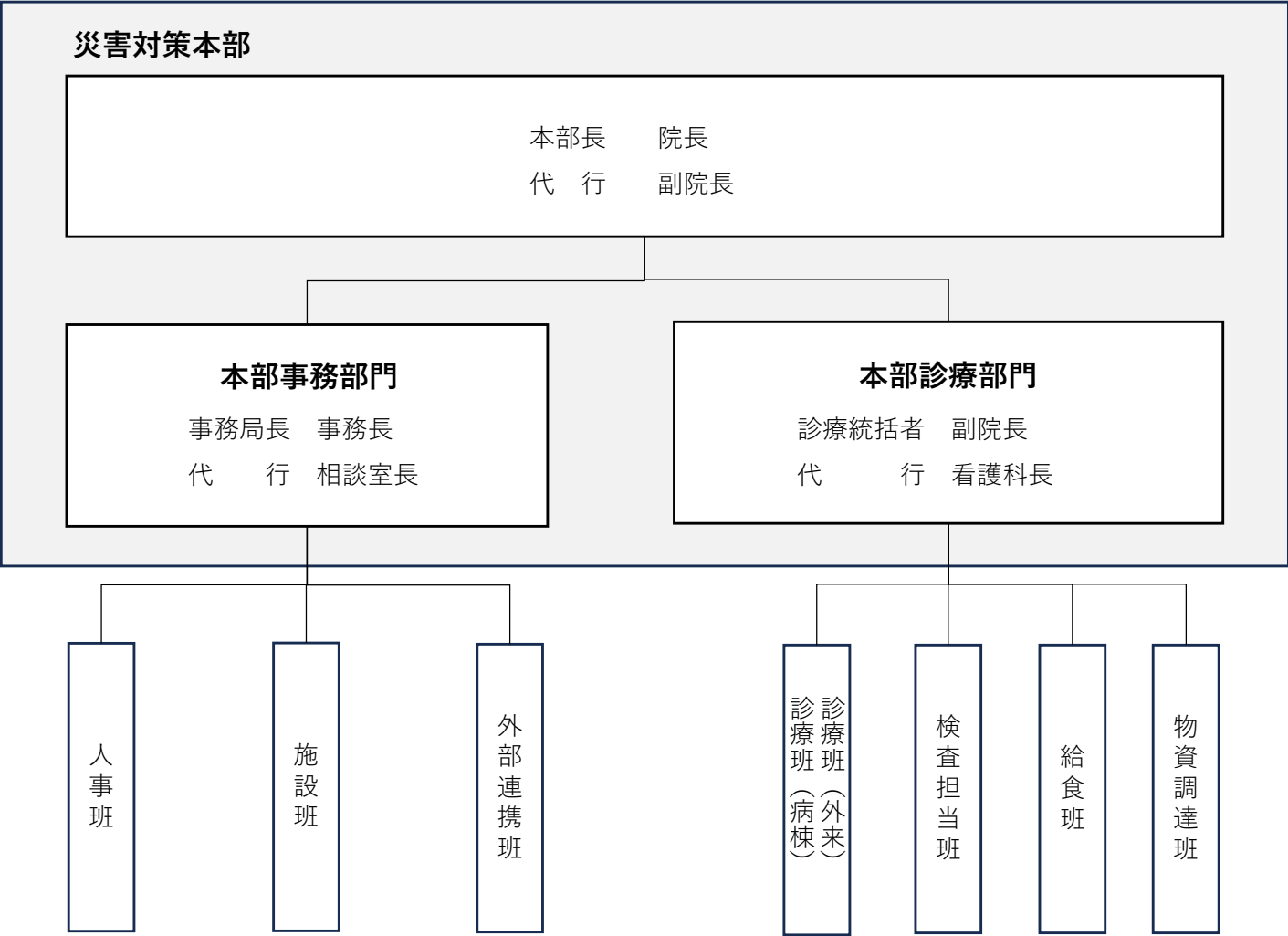
指揮命令系統図（医師会マニュアルの指揮命令系統準拠）



災害対策組織図



災害対策組織図



災害対策組織図



優先業務の選定

←	←	85	外来患者の帰宅誘導	避難誘導・警備班	←	←	○	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
←	←	86	慢性疾患患者に対する処方みの診療	救護班	←	←	←	←	←	○	⇒	⇒
←	←	87	診療の継続が困難な場合には転院・転送の検討	救護班	←	←	←	←	←	○	⇒	⇒
←	(6)	トリアージの実施		←	←	←	←	←	←	←	←	←
←	←	88	トリアージの実施	救護班	←	←	○	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
←	←	89	重症群患者(赤)の診療	救護班	←	←	○	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
←	←	90	中等症群患者(黄)の診療	救護班	←	←	○	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
←	←	91	軽症群患者(緑)の診療	救護班	←	←	○	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
←	(7)	急を要する外来診療の再開		←	←	←	←	←	←	←	←	←
←	←	92	慢性期症状患者への対応	救護班	←	←	←	←	←	←	○	⇒
←	←	93	在宅酸素使用患者への対応	救護班	←	←	←	←	←	←	○	⇒
搬	送	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←
←	(1)	入院患者の他院への搬送		←	←	←	←	←	←	←	←	←
←	←	94	搬送患者の選定	救護班	←	←	←	○	⇒	⇒	⇒	⇒
←	←	95	搬送用車両の確保	避難誘導・警備班	←	←	←	○	⇒	⇒	⇒	⇒
←	←	96	他病院への搬送	避難誘導・警備班	←	←	←	○	⇒	⇒	⇒	⇒
←	(2)	重症患者の搬送		←	←	←	←	←	←	←	←	←
←	←	97	搬送患者の選定	救護班	←	←	←	○	⇒	⇒	⇒	⇒
←	←	98	搬送用車両の確保	避難誘導・警備班	←	←	←	○	⇒	⇒	⇒	⇒
←	←	99	他病院への搬送	避難誘導・警備班	←	←	←	○	⇒	⇒	⇒	⇒
←	(3)	避難路・搬送路の確保		←	←	←	←	←	←	←	←	←
←	←	100	避難路の確認	施設班	←	←	←	○	⇒	⇒	⇒	⇒
←	←	101	搬送車両の誘導	施設班	←	←	←	○	⇒	⇒	⇒	⇒

災害時アクションカード

救護班

責任者：救急外来責任者
代行者：外来看護師

◆災害発生時業務フロー

- ①災害傷病者トリアージ実施場所を設営する
- ②軽症者・中等症者の治療を行う
- ③重症患者を他医療機関へ搬送する

災害時アクションカード

①災害傷病者トリアージ

- ①災害傷病者来院に対応するためのトリアージポストを**災害傷病者受入マニュアル**を参照し、設置する。

②傷病者治療

- ①緑エリア（軽症者）
黄エリア（中等症者）の治療を行う。

組織構築から行動計画まで



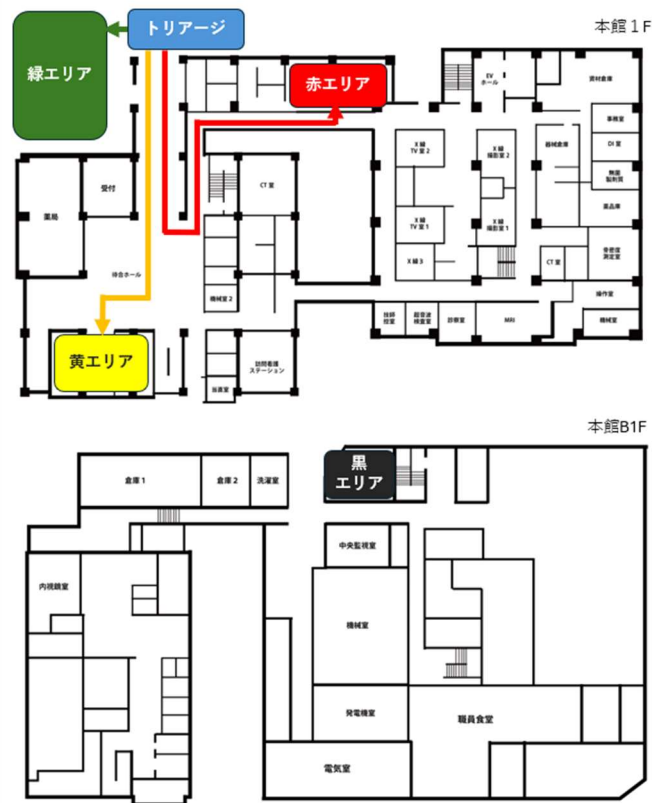
災害関連書類の構成

B C P	災害に対する平時からの備えから災害時の組織体制、行動計画まで災害関連計画の全体像を記載したもの
アクションカード	災害対策組織における各班（部門）の役割と大まかな行動内容を説明したもの
マニュアル	アクションカードに記載される現場での具体的行動方法をわかりやすく説明したもの
付表	アクションカード・マニュアルに記載される行動を補完する各種帳表類

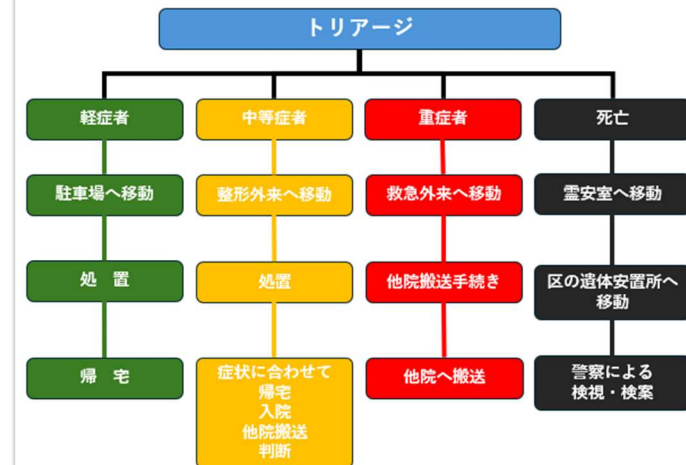
災害時

災害時傷病者受入 マニュアル

配置図



トリアージフロー



人員配置

	医師	看護師	事務職員
玄関（トリアージ）	外科部長 1	看護師（外来より） 3	5
救急外来（赤エリア）	外科医師 1	看護師 2	2
整形外科（黄エリア）	整形外科医師 1	看護師 2	1
駐車場（緑エリア）	内科医師 1	看護師 1	1

被害状況報告書

第一報

部門	本館 6F病棟	報告者		報告時間	:
----	---------	-----	--	------	---

※災害対策本部設置後、15分以内に本部に提出すること
※報告者は部門責任者でなくても良い

負傷者	■被害患者 名 詳細（患者名・負傷箇所や状況、対応状況の詳細）
	■被害職員 名 詳細（職員名・負傷箇所や状況、対応状況の詳細）

※負傷者が追加された場合、災害対策本部へ第一報を再提出すること

■病床状況

病床数	患者数	担送	搬送	独歩	人工呼吸器	透析

■報告時勤務者数

勤務者数

■設備被害状況

火災	なし・あり	電気	なし・あり	水道	なし・あり	ガス	なし・あり
壁面・窓	なし・あり	医療ガス	なし・あり	電話 PHS	なし・あり	空調	なし・あり

詳細（場所・状況）

第一報報告後、第二報を30分以内に報告すること

被害状況報告書

第二報

部門	本館 6F病棟	報告者		報告時間	:
----	---------	-----	--	------	---

第一報報告後、30分以内に報告すること

スタッフステーション			
名称	台数	損壊の有無	詳細な状況
心電図セントラルモニタ	1	なし・あり	送信機：7台(うち2台修理依頼中、うち1台代替機あり)
ナースコール(親機)	1	なし・あり	子機：4台(うち1台修理依頼中)
薬剤用冷蔵庫	1	なし・あり	
電子カルテ	7	なし・あり	デスクトップ：3台、ノートPC：4台
ノートPC	2	なし・あり	DX：1台、感染対策委員会用：1台
プリンター	3	なし・あり	電カル用：1台、ラベル用：1台、コピー機：1台
スキャナー	1	なし・あり	
製氷機	1	なし・あり	
廊下・その他			
名称	台数	損壊の有無	詳細な状況
ベッドサイドモニタ	1	なし・あり	
救急カート	1	なし・あり	

■業務継続

可否	詳細状況
可 ・ 一部不可 ・ 不可	

■その他の報告事項

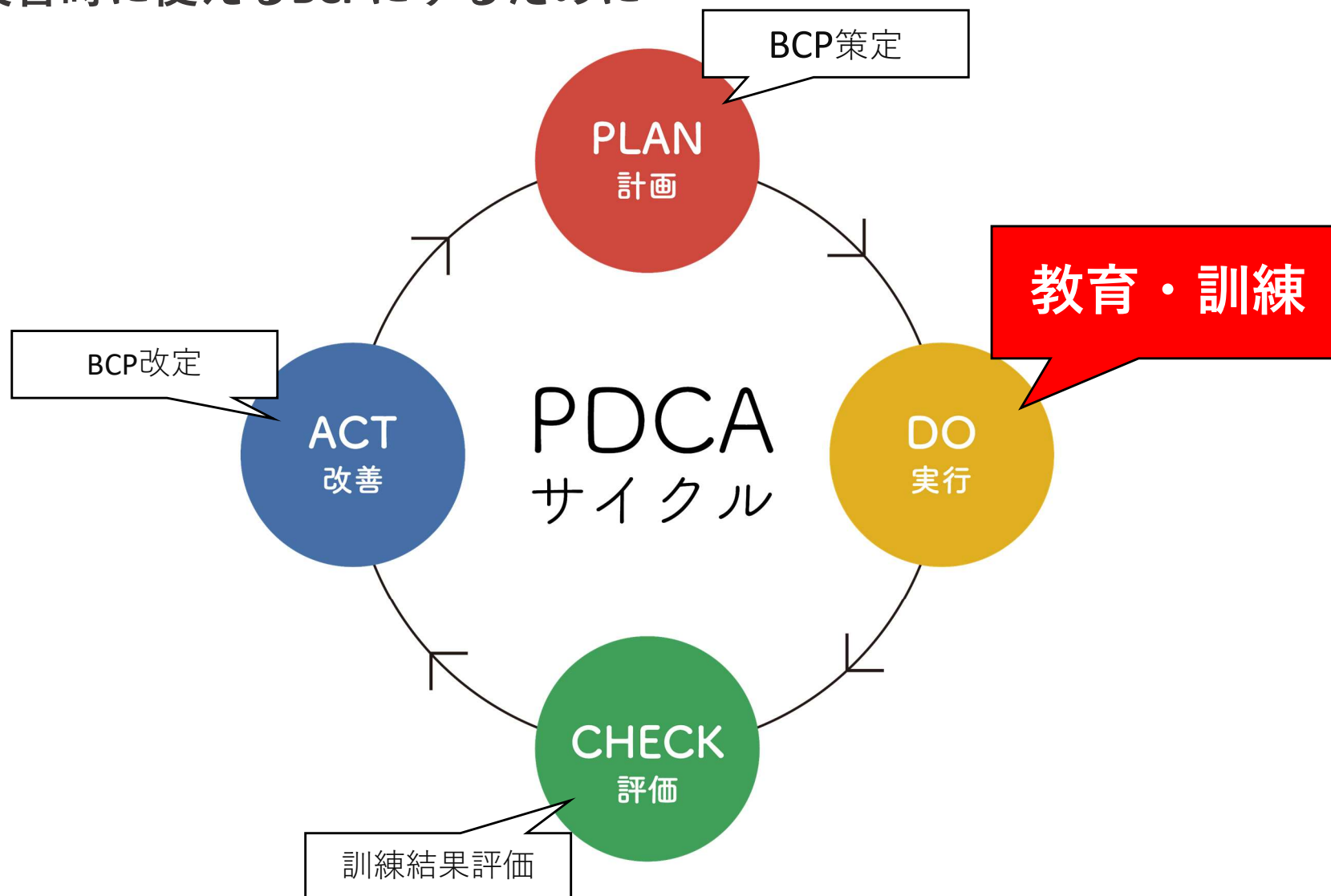
--



BCP訓練

継続的な改善

災害時に使えるBCPにするために



年1回の訓練・BCP見直しが必要です。

机上訓練

事前にシナリオを決定し、会議室などでメンバーを集め、机上で想定される状況を話し合いながら対策を考える訓練です。



実地訓練

アクションカードやマニュアルに従って実際に設置設定をしながら課題を抽出する訓練です。



災害対策本部設置訓練

トリアージ訓練

職員参集訓練



防災・BCPに関わるあらゆる課題解決に向けてご提案させていただきます。

Japan **BCP** *Co.,Ltd.*
Business Continuity Plan